



新年のごあいさつ



蒲郡市長
金原久雄

新年明けましておめでとうございます。

市民の皆様には、健やかな新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。また、日ごろから市政に対するご理解とご協力を賜わり、厚くお礼申し上げます。

今年は、冬季オリンピックがカナダのバンクーバーで、サッカーワールドカップが南アフリカで開催され、世界中の人々に大きな夢と感動を与えてくれることでしょう。また、野球やサッカーなど海外で活躍する日本選手の姿も我々に元気を与えてくれます。経済状況の悪化や新型インフルエンザの流行など暗い話題が多い中、日本選手の活躍が日本を元気にする活力となるよう期待しております。

さて、今年度は市制施行55周年の年であります。昨年4月には記念式典を開催し、市の発展にご尽力いただきました方々の表彰を行うとともに、数々の記念行事を行いました。

その他にも、国道23号と市役所通りを結ぶ中ノ坊線の開通、蒲郡北駅前広場の完成などの都市基盤整備や地球温暖化防止とごみ減量のためのレジ袋有料化、保健医療センター内に障がい者歯科診療所の開設など、市民生活の向上のため力を注いでまいりました。

今年は、消防・救急はもとより大規模災害に備えた防災拠点施設となる新消防庁舎や形原中学校南棟校舎、そして生涯学習の拠点・地域の交流の場となる形原公民館が3月までに完成する予定です。また、市役所での転入や転出時の申請などを一括して行うワンストップサービスを7月から、蒲郡駅南東に位置する東港埋立跡地を芝生化し、多目的広場として夏ごろから併用開始いたします。

さらには、観光や産業の振興、福祉の向上、都市基盤や教育環境の整備など積極的に推進するとともに、市民生活に深刻な影響を及ぼす市民病院の医師確保・経営改善の問題、名鉄西尾・蒲郡線の存続問題や国道23号蒲郡バイパスの早期開通など重大な問題に取り組んでまいります。

日本経済は、一昨年からの金融危機による景気の悪化が企業収益や個人消費の減少を招き、回復の兆しが見えない厳しい状況にあります。このような状況が長引けば、さらに景気が悪化する「デフレスパイラル」に陥る可能性もあり、本市の財政状況についても、依然として大変厳しい状況の中にあると言わざるをえません。このため、各種事業の実施にあたっては、費用対効果を見極め、優先順位の厳しい選択のもと、限られた財源を効率的に配分し、市民福祉の向上を目指してまいります。

本年も、私の市政推進の基本理念であります「安心のまち蒲郡」「自然と共生するまち蒲郡」「明るく元気なまち蒲郡」の実現に向け、積極的に取り組んでまいります。市民の皆様には、変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げ、新年のごあいさつといたします。